

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 5 年度実施報告（概要）

団体名： 国立大学法人 信州大学

1. 類型

【類型 I ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践
（ア. 公民科における指導）

2. 実践校について

実践校名	(ながのけんりつ まつもとあがたがおか こうとうがっこう) 長野県立 松本県ヶ丘 高等学校		
全校児童・生徒数	実践研究の対象		
1000 人	(学科)	(学年)	(生徒数)
	普通科	第 2 学年	120 人
	国際探究科	第 2 学年	40 人
	自然探究科	第 2 学年	40 人

3. 実践校における実践内容

(1) 概要

高等学校公民科、特に「公共」における「主権者教育」の実現を目指し、「哲学対話」の導入を図る。具体的には、主権者教育に「哲学対話」を取り入れた海外の実践などの研究を進め、「公共」への応用の可能性について、学習指導要領も踏まえて探ることとする。理論研究だけではなく、実践校において研究授業を定期的に実施し、実践前後の生徒の変容や学習の理解度等を図り、得られたデータを分析することによってその効果を見ていく。実践校においては、研究授業の質の向上を図るため、他教科の担当教員を対象に「哲学対話」の研修（ワークショップ）も実施する。

(2) 1 年目(令和5年度)の実践内容

本研究では、3 つのことを実施してきた。1 つ目が主な活動であり、高等学校公民科「公共」において、主権者教育としての機能を促進するため、「哲学対話」を取り入れる授業を実施した。現場の教員と連携し、授業で習得した知識をもとに生徒同士が対話的に内容を深められるような単元を選定して「哲学対話」を取り入れ、自己評価アンケートや論述

をもとに思考力や内容理解を分析した。

2 つ目は、教員向けの対話型授業研修である。公民科だけでなく様々な教科の教員にも自身の授業において対話型授業を実施するきっかけになるよう、「総合的な探究の時間」を活用して、生徒と共に「哲学対話」を取り入れた授業を実施した。（様々な教員が理論を学ぶと共に、実際に各グループで生徒向けにファシリテートを体験した。）

3 つ目は、「公共」の内容や哲学対話と関連づけさせる学習として、英語科授業の社会問題を扱う単元において、対話型活動を定期的の実施した。

4. 実践校における実施体制

- ・哲学対話の実践研究を行っている信州大学教育学部の**松島**が、長野県立松本県ヶ丘高等学校の公民科教諭、**本山**と共に哲学対話を取り入れた「公共」の授業を複数回にわたって実施する。
- ・実践校の校長である**徳永**は定期的に企画運営会議を開催し、公民科を担当する他の教諭にも参加を促し、「公共」の単元に沿う形で**松島**や**本山**と連携して哲学対話授業を計画する。
- ・**松島**は**徳永**や**本山**らと連携し、実践校の教員を対象に、哲学対話のワークショップ研修を実施し、「公共」に関連する他教科等における「主体的・対話的で深い学び」につながるよう支援する。
- ・英語を担当する**羽賀**と連携し、社会的課題や国際問題を扱う単元にて、積極的に対話学習を実施し、英語でのコミュニケーション力や思考力を養う。
- ・詳細な共同実践者の専門分野や研究実績、役割分担などは以下の表にまとめた。

氏名（所属・専門分野）	これまでの研究実績	本研究における役割分担
松島恒熙 （信州大学教育学部 助教） （哲学・教育哲学・ ・主権者教育・哲学対話）	①哲学・教育哲学・哲学対話の理論研究 ②教科横断型教育の実践研究（社会科・英語科・SDGs） ③哲学対話の実践研究 ④教員向け哲学対話研修	①哲学対話の理論研究 ②研究授業（公民科「公共」）における哲学対話の共同実施 ③教員向け哲学対話 WS 研修 ④研究授業の分析と学会発表および論文投稿 ⑤事例集の作成
本山修 （長野県立松本県ヶ丘 高等学校 公民科教諭） （公民科教育・主権者 教育・哲学対話）	①公民科教育・主権者教育・哲学対話の理論研究 ②公民科「倫理」「公共」における哲学対話の実践 ③教職大学院における学生向け対話レクチャー	①哲学対話の理論研究 ②研究授業（公民科「公共」）における哲学対話の共同実施 ③研究授業の分析補助と学会発表および論文投稿 ④事例集の作成補助
徳永佳代 （長野県立松本県ヶ丘 高等学校 校長）	①地理歴史科教育法の研究 ②日本史教育におけるアクティブラーニングの実践	①研究授業（公民科「公共」）の実施補助 ②教員向け哲学対話 WS 研修の推進

(地理歴史科教育・日本史教育・主権者教育)	③社会科授業実践における対話型授業の推進	③企画運営会議および実践校研究報告会の開催
羽賀規真 (長野県立松本県ヶ丘高等学校 英語科教諭) (英語教育・言語学・英米文学)	①英語科教育法の研究 ②英語科におけるアクティブラーニングの実践 ③英語科教育における対話型授業の推進	①教員向け哲学対話 WS 研修の推進 ②英語科における対話授業の実施 ③研究授業の分析補助

5. 各研究テーマについて、1年目の実践を踏まえた成果等

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践 (ア. 公民科における指導)

＜生徒が社会的事象に興味・関心を持ち、自分事として捉えながら、生徒に考えさせる教育活動を行うため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

- ・例えば授業の導入において、正義に関する思考実験や「自分が裁判員に選ばれたら？」など、身近な例を交えた問いをもとに哲学対話を実施することで、生徒が自分事として興味・関心を持つような工夫をした。これによって、授業の本編で扱う社会的事象を、より自分事として考えることができたので、2年目以降も積極的に続けていきたい。
- ・また、ワークシートを活用しながら生徒自身が対話に必要な知識を調べる時間を設けることによって、当事者意識を持って（すなわち自分事として）、授業に取り組むことができた。2年目以降は、前回の授業のふりかえりの際に、生徒自身に解説をお願いするなど、授業自体を生徒参加型にする工夫を進めていきたい。

＜発達の段階に応じた情報活用能力の育成(特に、社会的事象に関する情報を収集し、その情報を公正に判断し、自分の意見をもつこと)に関して、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

- ・例えば授業の冒頭で、前回までの内容について生徒自身が教科書や資料集を参照しながら、他者に分かりやすく説明する時間を設けることで、情報収集や知識整理を充実させることができた。このことは、対話（アウトプット）に必要な知識を定着させることにも繋がるので、2年目以降も積極的に取り入れていきたい。
- ・情報を収集し、公正に判断することができるよう、「哲学」の存在論（物事のそもそもを考え直す視点）・認識論（自分たちがどのように物事を認識しているのか）・認識論（自分たちがどのように物事に価値づけをしているのか）の視点を「批判思考」と関連づけながら解説した。
- ・このことによって、自分の意見についても精査したり論理的に伝えようとする意識を持って、他者との対話に望むことができた。2年目では、さらに「公正とは何か?」「自分の意見を持つとはどういうことか?」など、生徒たち自身が自覚的に考えることができるよう、哲学対話の「ケア的思考」の観点を解説しながら工夫していきたい。

＜教科等横断的な学習を充実するために、教育課程の編成に当たってどのような工夫が考えられるか。＞

- ・今回の実践研究対象は、公民科の「公共」であるが、その学びが他の教科科目・領域へと活かされるよう、英語科や公民科「政治・経済」において内容やテーマが重なる単位においても、対話型授業を実施する。（「政治・経済」においては３年生での履修のため、１年目では実施できなかったが、２年目では積極的に授業実践の連携を図りたい。）
- ・哲学対話をはじめとする対話型授業を、様々な教科・科目の教員が自身の授業においても実践できるよう、校長や学年主任と連携し、「総合的な探究の時間」を活用することができた。（報告書を参照いただきたい。）２年目においても教員研修やミーティングを積極的に実施し、教員自体が教科・科目横断的に連携することで学習内容の充実に繋がることを、ご理解いただく。

＜政治的事象について扱ったり、実際の選挙の機会を活用したり、議員を招へいしたりする学習活動を行う際、政治的中立性を確保するための取組に関して、どのような工夫が考えられるか（該当の取組がある場合）。＞

該当なし

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和5年度実施報告（実践校における実践内容の詳細）

団体名： 国立大学法人 信州大学

1. 類型

【類型Ⅰ②】主権者に必要な資質・能力の育成に係る高等学校における実践
（ア. 公民科における指導）

2. 実践校名

長野県立 松本県ヶ丘高等学校

3. 実践校における1年目（令和5年度）の実践内容

公民科「公共」において主権者教育の促進を目指した哲学対話の導入実践

単元：「正義とは・公正とは」（公共的な空間における人間としての在り方生き方）
（東京法令「公共」教科書）

- ① 「公共」教科書に掲載されている「正当な報酬」についての思考実験をもとに哲学対話を実施し、グループで意見を共有した。（導入のため、短時間で）
- ② 思考実験を踏まえ上で、「格差とは？」という問いを設定した。
- ③ その問いについて、Thinking Time を設け、生徒はまず各自で思いつくことや意見を対話シートにメモした。
- ④ 4人のグループに分かれ、各自の意見を順番に発表しながら哲学対話を実施した。
（聞いている人は、自身と違う意見をメモしながら聞いたり、問いかけたりする。）
- ⑤ 各グループの対話内容についてグループの代表者が全体に共有した。
- ⑥ 対話内容に関連づけながら、ロールズの格差原理を含む正義論について、教員の解説をもとに学びを深めた。
- ⑦ 最後に、対話シートを参照しながら自己評価アンケートを実施し、対話の振り返りを文章化した。



↑ 哲学対話の様子

(グループ対話、教員や大学生がフィシリテーター補助としてサポート)

位置付けやその意図

本実践は、「主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動」（『高等学校学習指導要領』p. 80）として位置づけられる。特に、「正義」や「公正」などの抽象的で大きなテーマと思わがちな社会的事象について、身近な例を参照しながら哲学対話をすることによって、哲学者の思想を知識定着のみならず、自分事として考えられるようになることを意図している。

また、「思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する」（同書、p. 80）ことを意図された実践でもあり、まさに「多面的・多角的に考察」することが促進されるよう、他者の意見に多く触れることができる手法として哲学対話を導入している。

指導上の工夫

- ・「正義」や「公正」について考えやすいように、導入において身近な例を題材とした思考実験を用いた。これにより、生徒は単元内容をより身近に・自分事として考えられるようになった。
- ・生徒同士の哲学対話がより深まるよう、Thinking Time を設けることによって、自身の考えを整理できるようにした。
- ・対話シートを活用することで、自身の意見だけでなく、他者の意見を可視化し、対話の軌跡を振り返りながら建設的な議論の展開ができるように工夫した。

(通常の哲学対話、特に国内において多く取り入れられているアメリカ由来の哲学対話では、あまり見られない画期的な試みである。)

Bさんの正当な報酬を考える 意見→理由、場合分け、新たな疑問など Aさんから見たら... Bさんの方が成果が半分なんだから報酬も半分にするべき、働いた時間なんて関係ない Bさん自身... 自分がBさんだから時間をAさんの2倍働いたんだから2倍ほしい 社長「効率」を重視した方がよい AさんとBさん、結果は時間より成果。効率の方が大事？ 2000円 時給だったら全然けちけちなってもお金だけもらえろ 自分が社長だったら時給やだ 他者の意見 (印象に残る意見、自分と違う意見など) 社長→効率悪い Aさん→Bさんとは仲良くしたいから Bさん 周りに同じ立場の人って報酬も同等に 成果と時間 どちら大切にすべきか考え変わる 社長が自己主義か成果主義か 両方4000円に(労働時間×成果)	格差とは？ 具体例、意見→理由、場合分け、新たな疑問など 金銭的な理由で、他人ができることや挑戦ができないこと？ 例) AさんとBさんがいて、2人とも留学したいと思っている Aさんは親の所得が高いから、どこかへ行って、お金持ちになる Bさんは、留学はお金がなくて行けない... この格差？ 格差って人々との差(お金とか)という意味だが、社会一般には、ふたつある。と、お金がなくってまっぴり人の差、という意味で使われてるの？ 他者の意見 (印象に残る意見、自分と違う意見など) 公立高校と私立高校の花火 地味、身体能力、親の経済力、登下校にかかる時間
--	---

↑対話シートの実例

指導後の生徒の変化など

生徒による対話後の振り返りを計量テキストのよって分析し、以下のように生徒の変化を記述する。

- ・同じ事象について考察したにも関わらず、自身と「違う」他者の意見に出会ったことについて意外性を感じたり、対話の面白さに気づく生徒が多かった。
- 普段から一緒に生活しているクラスメイトの中にも、全く違う意見を持つ他者がいるということ、すなわち他者の「異質性」への気付きがあり、「他者理解」や「異文化理解」が遠い問題ではなく、身近なところから始まることを実感する機会となった。

Result
考え方が必要になるんだなと知った◇自分の考えていることはみんな全く違う考えを持っていることもあって、すごく面白いと感じた。特に、最初のBさんの分かった。◇ウォーミングアップでやったBさんの収入を考えただけでも、人によって意見が違って、話し合っていてすごく面白かった。◇また、格差にはお金で解決できるものとできないものをどうしていくかを考えなければならなかった。◇周りと全然意見が違った。自分と反対の意見でも受け止めるようにしていきたい◇許される不平等は新しかっていいべきか、考えていく必要があると思った。◇授業では、いつもとは違う雰囲気、優しい大学生や先生と、一緒に話し合うことができたことが印象に残った。◇対話をしてみても、どの人の立場に立って話すかで考える方向が違ってしまうので面白かった。◇他の人の意見や考え方をすることで考えの幅も広がるし、ことはとても難しいことだと思いました。◇個人の立場や状況によって、考え方が違うということは仕方がないことだし当たり前のことだけど、全員が納得する提案をする

- ・自分の立場だけでなく、他の「視点」からの意見にも気づくことで、社会的事象（特に平等や公正などの「正義」概念に関するもの）について「多面的・多角的に考察」ことができるようになった。

Result
の価値観や考え方で大きく変わってくるなと思った。◇ある一方から見ると、もう一方から見ればそれは不平等だったり、そもそも前提が違っていて、すごく面白いと感じた。特に、最初のBさんの報酬を決めるところは、誰の色々な立場で色々な考え方があると思った。◇哲学についても、誰の観点から物事を考え、見て、多面的に物事を考えることが今後の社会を生きていくために必要か、深く考えられたと思う。哲学が面白いと感じた。またやりたい。◇給料や条件を変えることでどの方法が一番いいのかが、納得できるかが変わって、それを、ネットなどでもよく聞くので印象に残りやすかった。◇Bさんの正当な報酬について、結果が違っても条件によっても大きく変化したのが面白かった。◇給料という概念がないから

- ・思考実験や「格差」についての哲学対話を通して、視点による「変化」だけでなく、自分の意見自体が他者との対話によって「変化」することにも気づくことができた。
→他者の思考の受容および、自身の意見だけに固執することなく他者と協力しながら「共同探究」する民主主義的な態度すなわち、主権者に必要な「在り方」が養われたと考えられる。

Result	
遺伝による格差。◇格差というものを考えてみると、それぞれの価値観や考え方で大きく 変わっ てくるといった。◇ある一方から見た視点で、それが平等であつ のBさんの報酬を決めるところは、誰の視点で考えるかにもよって適切な値段が 変わっ てくることが分かった。◇ウォーミングアップでやったBさんの収入を考えただけでも、 と思った。◇哲学についても、誰の視点から見ると、だいぶ意見が 変わっ てくるといった。また、「正当な報酬」のところで、何をもちて成果と 分からなかったけど色々な思想があって、考え方やみる側面を変えたりしたら自分の考えも 変わる し、相手の考えも変えることができるようになるんだなと思った。何か一つの ◇視点や条件を変えることでどの方法が一番いいのか、納得できるのか 変わっ て、それを踏まえた上でみんなが納得する案を考えることはとても難しいことだなと思	

- ・また、哲学に興味を持つ生徒が複数出てきて、大学でも勉強したいと考えるようになったり、哲学関連の書籍（例えばカントなど）を購入する生徒も現れた。

※上記の実践内容は、日本倫理道德教育学会においても発表し、大いに反響をいただき、有意義な議論をさせていただいた。

「総合的な探究の時間」を活用した哲学対話の実施・教員研修

位置付けやその意図

- ・学習指導要領に「主体的・対話的で深い学び」が授業改善の方向性と示されたことに加え、熟議民主主義を体現する主権者の育成を目的として、生徒が対話の作法（ケアの意識や安全性の醸成など）を身に付けられる機会とする。その手法の1つとして哲学対話を導入する。
- ・教員が対話活動におけるファシリテーターとして必要な技能を身に付ける教員研修の機会として活用する。
- ・教員が哲学対話を実際に生徒と共に「体験」することによって、自身の授業において対話型授業を実施するイメージを持ってもらうことを意図している。

指導上の工夫

- ・哲学思想の専門的な知識がなくとも議論ができ、かつ対話への意欲・関心を高める魅力的な対話のテーマを設定する。1人当たりの発言回数が増えるよう、少人数の3～4人グループで実施した。

回数	テーマ	ファシリテーター
第1回	「スポーツ」とは何か？	松島
第2回	「存在する」とは？	本山
第3回	「勉強する」とは？	探究科主任

第4回	「AI（愛）」とは？	担任 A
第5回	「言葉とは？」 「伝統とは？」 「動物に権利はあるか？」 (テーマを生徒が選択し、3つに分かれて実施)	担任 B・C

- ・哲学対話におけるファシリテーターの具体的な振る舞いや「問い」の設定の仕方、導入の在り方などを大学教員と経験のある教員が実践することで先に手本を示し、テーマ設定から導入、展開のファシリテーションを初心者の教員が学べる機会をつくった。

指導後の生徒の変化などについて

- ・当初乗り気でなかった生徒も含めて、必ずしも1つの答えに収斂されえないテーマについて対話することを通じて粘り強く考え続け、自身とは異なる考えを受け入れようとする態度が見られた。また、新たな問いが生まれる体験をし、思考力・判断力・表現力だけに収まらない力（持続性・寛容性・忍耐力）などを身に付ける機会になったと考える。
- ・生徒のグループの中に、教員も参加することによって、普段の「教える・教えられる」といった関係性から、正解のない問いについて協力しながら考察する「共同探究者」へと関係性の変化が見られた。
- ・回数を重ねるにつれて、生徒も教員も他者の意見に対して「問いかける」ことができるようになり、より対話内容が深まったり、「新たな問い」が創造されたりした。

↓ 第1回の対話の様子



↓ 第5回の対話の様子



公民科「公共」の主権者教育に関連する活動（英語科）

（1年目は関連する活動は英語科に限られてしまった。2年目はさらに、「公共」で哲学対話を経験した生徒が「政治・経済」を履修することになるので、そこにおいても関連する活動を積極的に展開する予定である。）

「Behind the Price Tag」Heartening English Communication I（桐原書店）

目標

社会的問題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して対話し、伝え合うことができるようにする。

内容

社会的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに対話する活動。また、やり取りした内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

意図

自分たちの生活の身近にある「ファストファッション」の成り立つ背景や、それを支える人たちの実情を学んだ上で、自分たちの消費意識にどのように影響するのか、実際の消費活動にどのような変化が起こるか考える。また、このような社会問題に関わって、自分が今後どのようなアプローチをしていくか意見交換する機会を創ること。

指導上の工夫

- ・背景理解においては、教科書の文章だけでなく、実際の新聞記事・海外ニュース等の関連動画、国内外のファストファッションブランドのウェブページに触れるなど、オーセンティックな情報を教材として活用した。
- ・「ファストファッション＝悪いもの」という内容ではないので、プラス面マイナス面の両方に思考が深まるよう授業を展開した。



↑ グループ対話の様子



（次のページに続く）

English Communication I

Lesson 7 Behind the Price Tag

Class No. Name

Listening	Listen to a mini debate and understand the opinions and the points of the argument.
Reading	Understand the main points and details of the lecture on the modern fashion industry.
Speaking[Interaction]	Express for or against to the other party's statement and explain the reason.
Speaking[Production]	Organize the main points of the lecture and the opinions of the two parties, and report them in class.
Writing	Write a paragraph about the problems in fashion industry with arguments for different positions.

Schema Activation Text Type : Argumentative ? Explanatory ? Narrative ?

Grasping the Gist Complete the chart below by writing a word in each box.

Part 1

less than 1% of the () price

● manufacture their products in Bangladesh
● think that the () products sell well

apparel maker

worker

customer

● work for () wages

Part 2

● work in () conditions → terrible accidents happen

Part 3

buy

● () price
● suit him
● () the lives of the workers

Part 4

don't buy

● not comfortable
● not durable → a waste of ()
● don't want the workers to be ()

Post-Reading

ThinkShare

Do you agree with the idea; "We should stop buying cheap shirts", or not?

Summary Writing / Paragraph Memo

Reflection

What is new information for you? ... What you have learned through this lesson?

↑実際に使用したワークシート

指導後の生徒の変化

- ・オーセンティックな教材を活用したこともあり、生徒自身が積極的にスピーキングの準備をする様子が見られた。
- ・自身の身近な生活と照らし合わせることで、社会問題を自分事として捉え、英語表現がより説得力のあるものになるよう、探究する姿が見られた。
- ・回数を重ねるにつれて、英語で伝えることの「恥ずかしさ」が解消されていくとともに、他者のスピーキングを熱心に聞き取ろうとする生徒が増えた。